

NPO 法人

第66号

芦安ファンクラブ通信

南アルプス地域の自然を愛するすべての人達に対して、地域の人々との交流を通じた南アルプスの環境保全及び適正利用に関する事業を行い、もって、南アルプス市芦安地域の活性化に寄与する。

～芦安ファンクラブの理念～

特定非営利活動法人芦安ファンクラブ 事務局 南アルプス市芦安芦倉 1578
TEL 055-288-2345 FAX 055-288-2531 HP <http://ashiyasu.com> Mail afc3193@nus.ne.jp

南アルプス学講座から

「南アルプスの山々の魅力②」

芦安山岳館館長 塩沢久仙

全 11 回の連続講座として開催された「南アルプス学講座」。その中から、塩沢久仙さんの講座の内容を抜粋してご紹介しています。今回はその 2 回目、南アルプスの雄、甲斐駒ヶ岳です！

甲斐駒ヶ岳 2967m 北杜市／伊那市

南アルプスの最北域に位置する独立峰のように聳える山である。駒ヶ岳という名前の山は日本各地にあり、信仰の対象となっている場合が多く、甲斐駒ヶ岳も古くから信仰の対象となっていた。甲斐駒ヶ岳の南側には北沢峠があり仙丈ヶ岳と双壁を為しており、仙丈ヶ岳が女性的とされるのに対し甲斐駒ヶ岳は男性的と称される。

甲斐駒ヶ岳山頂南西の駒津峰より南東にのびる早川尾根は、アサヨ峰などを経て鳳凰三山へと続く。



北岳稜線からの甲斐駒ヶ岳

山頂から北西に伸びる尾根は鋸岳へと続いている。北側に伸びる黒戸尾根は日本三大急登に数えられ、登山口の竹宇駒ヶ岳神社が標高 600m ほどなので、実に 2350m 以上を登ることとなる。他の日本三大急登は、北アルプス烏帽子岳ブナ立尾根が標高差 1550m、谷川岳西黒尾根が標高差 1300m であり、黒戸尾根は別格の高度差を誇る。また、富士山の 5 合目（標高 2305m）より山頂までの高低差は 1450m 程度でありこれとも比べ物にならない。深田久弥もその急登は日本アルプス随一であるとしている。

駒ヶ岳の名前の由来は雷光のように光る両眼、白く長く垂れ引く尾をもち、雲上にすむという神馬が住んでいるという伝説によるという説、麓の地域が古代から名馬の産地であったという説、駒は巨摩、高麗で、山麓に住んだ渡来人から来ているという説などがある。甲斐駒ヶ岳という名称を一般には用いているが、長野県側では西側の木曾駒ヶ岳を西駒ヶ岳に対する名前として東駒ヶ岳という名前や、

赤河原岳や白崩山という名称を用いる。伊那の人にとっては自分の身近にある山に他の国の名前が付くことへ抵抗感があるのだと思うが、一等三角点の名称も「甲駒ヶ岳」となっており甲斐駒ヶ岳と呼ぶのが適当であろう。山梨県の一等三角点はあと一箇所毛無山にあるのみである。甲斐駒ヶ岳の北東側には尾白川、大武川、戸台川など美しい渓谷が多く、多くの滝が存在する。

歴史

甲斐駒ヶ岳への登山道を開いたのは弘幡行者で、1816年といわれる。父親とともに甲斐駒北東側の尾白川からのアプローチを試み、結局は3年後に横手から登って登頂を果たしたと伝えられる。これは槍ヶ岳よりも12年も早い開山である。

江戸時代から明治にかけては信仰登山の対象となり、黒戸尾根沿いの登山道に多くの石碑が残る。しかし開山前から里の人たちに山頂の様子は知られていた。開山2年前に出来上がった『甲斐国志』に「山頂巖窟ノ中ニ駒形権現ヲ安置セル所アリ」と記述されている。

明治17年(1884年)に、植松嘉衛が修験者のために五合目に簡素な小屋掛けを造り、信仰登山が盛んに行われていた。明治24年(1891年)に山頂に一等三角点が設置されている。明治29年(1896年)に、木暮理太郎が、明治35年(1902年)に、ウエストーンが黒戸尾根から登頂した。信州側からは、弘幡行者の父親や弟子によって戸台から赤河原を経て、現在の石室から登頂し、開山されたとされる。

また明治14年(1881年)高遠藩の儒者高橋利常の長男、高橋敬十郎が登り「登白崩岳記」を残している。昭和55年(1980年)に北沢峠に南アルプス林道が開通するとほとんどの登山者は北沢峠から登ることとなった。

地形地質

甲斐駒ヶ岳は白いピラミッド型の山容が特徴的で、これは山体が花崗岩で形成されているからである。山頂部は花崗岩となっており、花崗岩が風化して砂となった白いマサが地表を埋め尽くされており、釜無川方向から見ると白い山体が印象的である。

また、甲斐駒ヶ岳周辺の美しい渓谷はこの花崗岩の巨礫によって造られている。この花崗岩は南アル

プス全体が隆起した後の約1400万年前に、南アルプスに卓越する四万十帯の岩石に貫入したものである。しかし、甲斐駒ヶ岳と駒津峰の鞍部から南西側の野呂川方面は白根層群、鋸岳方面は赤石層群の堆積岩が山体を形成しており、甲斐駒ヶ岳は花崗岩だけで作られている山ではない。つまり、花崗岩となっているのは山頂付近と釜無川側の山体の半分にあたる部分である。花崗岩と堆積岩の境界では堆積岩が接触変成したホルンフェルスがみられる。

仙水小屋から仙水峠の間の北沢の上流部には花崗岩の巨礫が谷を埋め尽くしており、少なくとも深さ1mまでは充填物質を欠いたガサガサの岩塊地となっている。この巨礫の生成理由については、大地震の影響や周氷河作用の結果であるなどの諸説がある。

また、この地域の地質は堆積岩部であり、流域を含めても花崗岩を基盤とする場所は無い。それにも関わらず花崗岩がみられる理由として河川争奪が考えられる。花崗岩は堆積岩に比べて風化しやすく、そのため地表面の侵食スピードも速い。そのため、花崗岩部分であった谷頭が削られて流路方向が変化したためである。このような結果、いま現在分水界となっている仙水峠はウインドギャップと呼ばれる地形である。

動植物

甲斐駒ヶ岳の東側と西側では亜高山帯の植生が大きく異なる。東側はコメツガやウラジロモミが多いのに対し、西側はシラビソやオオシラビソが優占する。特に、黒戸尾根の中腹にはウラジロモミの優占林が広くみられる。

仙水峠下の岩塊地はほぼ無植生で周囲にはコメツガやハイマツの低木がみられる。また甲斐駒ヶ岳周辺には天然のカラマツが多いのも特徴的である。山頂付近のハイマツ帯にはライチョウが生息する。

【訃報】

芦安ファンクラブ会長であり、南アルプス芦安山岳館館長の塩沢久仙さまにおかれましては、9月24日にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

第44回登山教室レポート

北岳 “百花繚乱”

南アルプス市 西村正人(新入会員)

十数年振り、2度目の北岳登山です。
前回は、時期が8月でしたのでキタダケソウの花を見ることはできませんでした。

今回はキタダケソウを目的に、またほかの花と間違えやすいと聞いていたので、しっかりと学びたいと思い、この7月12～14日、2泊3日の登山教室に参加しました。

3日目の下山時は雨でしたが、初日の御池小屋行きと2日目の北岳登山・高山植物観察会は、快適に行えました。キタダケソウ以外にもたくさんの花に出会いました。

ホソバキリンソウ、バイカウツギ、コアジサイ、クルマバツクバネソウ、ギンリョウソウ、カニコウモリ、タカネグンナイフウロ、ヒロハコンロンソウ、ミヤマキンボウゲ、キバナノコマノツメ、チシマヒョウタンボク、オオヒョウタンボク、ハクサンチドリ、ショウジョウバカマ、ハクサンイチゲ、ナナカマド、コイワカガミ、シナノキンバイ、ツガザクラ、タカネヤハズハハコ、コケモモ、イワウメ、キバナシャクナゲ、タカネツメクサ、オヤマノエンドウ、イワベンケイ、ミヤマシオガマ、ハハコヨモギ、クモマナズナ、ミヤマキンバイ、ミヤマハナシノブ、カラマツソウ、マイズルソウ、ゴゼンタチバナ、等々、約40種類を1回の山歩きで見ることができたこと、北岳の花の豊かさに驚きと感動でした。

キタダケソウは、ハクサンイチゲと並んで咲いていたので区別ができましたが、別々に出会ったら間違える可能性は大きいと感じました。

この登山教室に参加させて頂いたことに感謝。さらに、雷鳥の親子に出会い、3羽のヒナの可愛い姿をじっくりと観察できたことは大変貴重かつ素晴らしいハプニングでした。

2泊した御池小屋は、清潔で整理が行き届いた施設で、おいしい食事も含めて大変快適でした。明るく親切なスタッフの皆さんに心から感謝申し上げます。

ご指導頂きました芦安ファンクラブの石川さん、大滝さん、花輪さん、きめ細かい心遣いと暖かいご教授、有難うございました。

また、芦安ファンクラブの皆様の、南アルプスの自然保護活動、広河原山荘、白根御池小屋、長衛小屋の運営を通じた登山者の快適で安全な登山への支援活動、小中学生への教育活動への関わりなどのお話をお聞きし、その熱い思いと素晴らしい行動力に感銘を受けました。

私も今年、サラリーマン生活の定年を迎え、地元で生活するひとりとして、出来ることがあればと感じ、この機会に当クラブに入会させて頂くことと致しました。今後も引き続き、宜しく願い申し上げます。



山頂にて



キタダケソウ



ライチョウとヒナ

【連載】私と「山」と⑦

～アコンカグア登山～ 芦安ファンクラブ 井口功

前回、奥秩父の登山の話をしたので今回は南アメリカの登山をした時の話をしようと思います。以前マッキンリー峰（現在はデナリー峰と呼ぶ）に一緒に行った友人がチリのサンチャゴに住んでいて時々年賀状をやり取りしていました。1998年の年賀状にアコンカグア山に登りたいので協力してくれないかと書き送ると非常に喜んでくれた。それではとその年の12月から翌年1月に行くことにし、一緒に行かないかと仲間呼びかけました。

当初4～5名で行きたいと思っていたのですが是非参加したいと12名にもなってしまい、また山の後、パタゴニアまで行こう、マチャプチに行きたいなど計画が拡大してしまいました。そこで全体のまとめ役に三枝さん（山梨の誇る隊長適任者）に隊長になってもらい、期間を12月23日～1月17日までの26日間にし、細かく計画を進めました。私は山とパタゴニアのトレッキングに行くことにしました。

12月23日、成田～シアトル、乗り換えてマイアミそしてチリのサンチャゴには24日の12時頃に着いたが地球の真反対までの長い空の旅だった。空港には友人の内藤さんが来ていてくれホテルまで案内してくれた。その後マーケットで食料や装備などの買物をした。

25日、車で国境を越えアルゼンチンに入りプンテデルインカにあるアコンカグア山登山口のレンジャーハウスでの手続き、ムーラ（馬とロバの合いの子）やポーターの手配など全てを内藤さんがやってくれた。なにしろ私のスペイン語はセレベッサ・ウノ（ビール1本）だけでしたから、内藤さんには感謝感謝でした。荷物をムーラに預けその日泊まるコンフルエシアでの装備と食料を担いでいよいよ登山を開始しました。



ピラミッド峰を望む

26日、標高4230mのプラサ・デ・ムーラス(歩き始めて30Km)までの長い不毛の道を歩き結構疲れた。すでにそこには沢山のテントがあり色々な国の登山家が活動していた。その一角に我々もテントを2張り(4人用と8人用)設営しベースキャンプ(BC)とした。

27日~1月1日までにニド・デ・コンドレス(5450m)にキャンプ1、ベルリンキャンプ(5950m)にキャンプ2(C2)を設営した。そして高度順応のため6400m位まで登った。

1月2日、中村、私の2人6時に暗い中C2を出発、暫くはヘッドライトの光だけが頼りであった。途中先行していたドイツ人を抜きそれからは踏み跡が無くなったが先日歩いていたので不安は無かった。明るくなってカナレタまでの長いトラバースが続いたがアイゼンがよく効いた。カナレタは頂上直下まで続くクロアール(岩の溝)の入り口で6700m位でここから山頂までは足首から脛ほどのラッセルとなり高度の影響で辛い登りだった。

山頂(6959m)に13時13分到着、遮るものの無い南米大陸最高峰の眺望を堪能した。

下山途中で韓国隊の17~20名の登山者に上部のことを聞かれたが双方とも片言の英語のやり取りで解ったかどうか。BCまで今日のうちに下りなければならぬので時間が無かった。標高差登り約1000m、下り約2750mの行動時間12時間35分の日だった。

3日~5日、他の隊員の頂上アタック、C2、C1の撤去などした。1月6日、BCを撤去し30kmを一気に下りレンジャーハウスに下山の報告とごみ袋の計測などをし、ロス・ベニテンテスの陸軍の兵舎に泊まった。7日、車で向かいに来てくれた内藤とサンチャゴに戻った。8日、登山だけで帰国する者がサンチャゴを発った。パタゴニアに行く者もプンタ・アレナスに出発し、14日にサンチャゴに戻るまで南米大陸の最南端のパタゴニアのパイネ国立公園でのトレッキングを楽しんだ。16日、サンチャゴ~マイアミ~シアトル~成田(17日16時10分)で帰国した。

アコンカグア山(6959m)は高度障害が一番の障害となり我々の期間中に韓国人一人、日本人一人が高度による障害で死亡する事故が起こっていた。中々手ごわい山で我々は4名が頂上まで登っただけであった。



山頂にて



6,000m付近から周りの山を望む

登山者のマナーについて考える 芦安ファンクラブ 入倉利也

南アルプスのシーズン開始（6月24日）から、芦安第二駐車場の芦安山岳観光案内所で登山客に対して、登山届けの書き方の指導や登山道の案内・日帰り温泉案内やお土産の案内など様々な業務を行っています。駐車場の清掃も主な業務の一つなのですが、最近強く思う事があります。それは、下山した登山客が帰った後の駐車スペースにはゴミがとても多い、ということです。登山者のマナーの低さを感じ、大変残念な気持ちになります。登山道や山頂にはゴミを捨てないのは当たり前ですが、駐車場も同じではないでしょうか。自分の出したゴミは、自分で持ち帰る心がけがほしいです。



駐車場で集めたゴミ



置き去りのゴミ

山登り探訪

芦安ファンクラブ 伊藤陽一さん

昨年は、たくさんの県外の山に登ってきました。とくに北アルプスの朝日が、凄く綺麗な感じでした。二年ぶりの上高地～徳沢間は、朝の出発が遅れた為大変でした。また、徳沢からの登山道は視界が余り良くないルートでちょっとがっかり！途中で、足を吊るアクシデントに見舞われたけれども山小屋に到着する予定より一時間前に連絡して無事に到着しました。今までで、一番の体調不良で、常日頃の大切さを痛感させられた次第です。また、ぼくは、知りませんでした！山の用具メーカーのモンベルさんが、徳沢でイベントを行い、そこに参加された百名山単独走破の田中陽希さんに、登山道でばったりお会いして写真を御一緒に撮影させて頂きました。大変な幸運でした。また蝶ヶ岳山頂は最高の朝やけでした。秋には、那須岳・妙義山など楽しく登りました。今年も色々な山に登りたいと思います。皆様のご指導のもと頑張りたいです。今後もよろしくお願いします。



田中陽希さんとパチリ



蝶ヶ岳の朝焼け